

活動名称 (40字以内)	野宿学(雪国編)「雪国でイグルーを自作して一晩過ごしてみよう」		
団体名等	野宿学研究会		
活動区分	<input type="checkbox"/> ボランティアなどの社会貢献活動	選考方法	<input checked="" type="checkbox"/> 先着順
	<input type="checkbox"/> 国際交流体験活動		<input type="checkbox"/> 書類審査
	<input type="checkbox"/> 就労体験活動		<input type="checkbox"/> 面接
	<input type="checkbox"/> 農林水産業・地域体験活動	募集人数	6 人
	<input checked="" type="checkbox"/> フィールドワーク体験活動		
<input type="checkbox"/> 研究室体験活動			
活動方法	<input checked="" type="checkbox"/> オンラインを活用しつつ現地活動を行う <input type="checkbox"/> オンラインのみで活動を行う		
大学院学生	<input checked="" type="checkbox"/> 含む <input type="checkbox"/> 含まない		
参加資格等	アウトドアのライフスタイルに関心があり、寒さを楽しんだり体験したい人向け		
活動期間	2024年1月下旬 ~ 2月 3~4 日間	主な活動予定場所	長野県飯山市
目的	雪国の生活環境に触れると共に、自然の資源や環境問題に対する考えを深める		
具体的な内容 (800字程度)	<p>野宿学(雪国編)「雪国でイグルーを自作して一晩過ごしてみよう」</p> <p>野宿学とは、本企画を立ち上げる為に提案された小淵祐介研究室で進めているDIY研究の造語で、設備の整った建物の中で宿を取るのではなく、自分の力もしくは共同体で一晩過ごす場所を創ること、または野宿の可能性について考えることを目的とする。大雑把に言ってしまうと、アウトドアキャンピングを市場原理のレジャーやライフスタイルとしてだけに位置付けるのではなく、持続的社会に向けた最小限の生活環境のあり方を自分の手で作ってみることで、抽象的に捉えられがちなカーボンニュートラル社会の実現を体験をもとに模索することを目標とする。</p> <p>本企画のメインのイグルーとは、カナダ北部や北極圏に住むイヌイット族でよく知られている、圧雪ブロックをドーム状に積んで作る伝統的な移動式住居のこと。テントのような複数種類の部材による構築物と違い、移動中の場所で採れた雪を建材として使う。また、移動後に取り残されたイグルーは放置しておけば水に戻る、といった最もシンプルで環境負荷の低い環境の資源循環型住居といっても過言ではない。また、実際に体験してみないと信じ難い事だが、圧雪ブロックは氷と違い小さな気泡を多く含んでおり断熱性に富んだ「建材」であり、室内空間は少しの暖房で外気と比べて暖かくすることができる。寒冷地ならではの生活の知恵が詰まった生活空間である。</p> <p>本企画は、長野県飯山市戸狩温泉スキー場の麓をベースに、1メートル以上の厚さの雪に覆われた広大な日本の原風景を見渡す場所で、地元の人たちの協力を得ながらイグルーを小淵祐介研究室(工学系研究科建築学専攻)と佐藤淳研究室(新領域環境学専攻 社会文化環境学専攻)の学生達と一緒に造り、実際に一晩過ごしてみるワークショップです。イグルーの製作は、小淵研究で開発しているハンドヘルド・デジタルファブリケーション・ツールと、佐藤研究室で開発されている構造解析システムを用いて、建設に関わったことのない人でも建築のモノづくりに参加できる建築構法の研究の実証実験として展開される。飯山市からのサポートを背景に、豪雪地帯における雪資源の活用をベースとした新しい観光モデルのあり方なども地元住民や行政の方々々とディスカッションする予定です。</p> <p>ワークショップは2泊3日の予定。初日はかんじきの作成など、深雪での屋外活動の準備やイグルー設置場所の準備、地元の人たちとの交流など、2日目はメインのイグルー作りと野宿体験、3日目はイグルー周辺の深雪のハイキングや、地元の方々との交流。イグルー製作はサイズにもよりますが、共同作業で3人で一つを作る予定。</p>		
備考	建築学の予備知識、工学の予備知識は不要		
参加するための費用 [※]	内訳(1名当たり)		その他 [※] 特記事項は以下に記載 真冬の屋外での作業を前提としたワークショップなので、防寒着などの冬支度は各自で準備する必要がある。自作イグルーで寝るにあたり、寒冷地用の寝袋、寝袋カバー、キャンプ用マットはレンタルします。レンタル費用は宿泊費に含まれる。食事は、参加者全員で自炊。食料費は宿泊費に含まれる。 かんじき(スノーシュー)の制作などに必要な材料の購入を目的として1人あたり2千円を材料費として徴収する予定。参加費の残りは、最終日の食料費として使う。 宿泊は、イグルーの制作中は、地元の民宿、もしくは地元の公共施設を借りて寝泊まりするなど、学生の予算によって設定する予定。
	交通費	20,000 円	
	宿泊費	12,000 円	
	材料費	2,000 円	
	計	34,000 円	奨励金額 活動後に算出
ウェブサイト等	https://www.youtube.com/watch?v=hVRUQoFIHcA		